

会議議事録

会議名	平成 28 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 29 年 2 月 27 日 (月曜日) 15:00~17:00 (2.0h)
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員:入野 豊委員 (非営利活動法人大田区介護支援専門員連絡会副理事長)、丸山泰一委員 (社会福祉法人池上長寿園たまがわ事業部門統括事業所長 (計 2 名)) ②本校委員:橋本正樹 (校長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、熊谷 崇 (介護福祉科教員)、宮下昭久 (事務局長)、榊原幸之 (広報室長) (計 5 名) ③オブザーバー:武石稔弘 (介護福祉科教員)、松下 薫 (介護福祉科教員) (計 2 名) ④事務局:手塚理恵子、高橋 稔 (参加者合計 11 名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付:□資料 1:平成 28 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録、□資料 4:平成 28 年度の教育活動と学科運営に関する報告 ②当日配付:□資料 2:前回委員会以降の主な経過報告 (別添 A:平成 28 年度学校関係者評価委員会報告書、別添 B:平成 28 年度後期授業アンケート集計結果の概要)、□資料 3:前回説明以降の平成 28 年度の教育活動、学科運営の主な活動状況、□資料 5:平成 28 年度 19 期生ケーススタディ資料 (企業等委員に配付)、□資料 6:介護実習の手引き (企業等委員に配付) ③覧資料:□介護福祉士養成科訓練生募集案内
委員長	橋本校長
議題等	1. 校長挨拶 橋本校長より、本日出席の企業等委員の方々への謝辞の後、以下の挨拶が行われた。 介護福祉科が職業実践専門課程に認定された。明日の官報に公示予定である。入管法改正により外国人の在留資格として介護福祉士が認められることになったが、今年度もどの養成施設も募集に苦勞している状況は変わらない。また、本校は来年度が看護科開設 3 年目の完成年度となることから、医療と福祉の専門学校として各学科の連携をさらに深めていくとともに、引き続きアドミッション・ポリシーの確認、教育の質保証、効果的な情報公開を行い、選ばれる学校 (プレステージスクール) を目指していく。本日も教育課程編成委員会の先生方から、福祉分野の教育活動について貴重なご意見を伺いたい。 2. 前回委員会議事録の確認 (説明者:事務局高橋) 事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、橋本委員長より、前回議事録 (資料 1) について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めた旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。 3. 平成 28 年度の活動報告等について (1) 平成 28 年度第 1 回委員会以降の主な経過 (説明者:宮下事務局長、事務局高橋)

各担当より資料2（別添A、B）に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、委員より就職と授業アンケートについて質問、意見があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

(2) 平成28年度の教育活動と学科運営に関する報告（説明者：岩上学科長、熊谷教員、武石教員、松下教員）

各担当より資料3、資料4、資料5に基づき、カリキュラム、医療的ケア、地域包括ケア、保護者会、介護実習、国家試験対策、平成28年度ケーススタディ発表会他について報告が行われ、確認、了承された。なお、委員より授業内容他について質問、意見があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成28年度の教員研修に関する報告（説明者：岩上学科長、熊谷教員）

各担当より資料4に基づき前回報告以降の教員研修について報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 平成29年度の教育活動と学科運営について（説明者：岩上学科長、熊谷教員、武石教員、榊原広報室長）

各担当より資料4、資料6に基づき、各学年のカリキュラムと教育活動のポイント、国家試験対策、介護実習の手引き、教員研修、学生募集他について説明が行われ、確認、了承された。なお、委員より教員研修他について質問、意見があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

本委員会は年2回の開催であり、次回は7月を予定している。5月に各委員の予定をお伺いして日程調整を行う。テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ①平成29年度学科運営計画の説明
- ②平成29年度カリキュラムと教育の実施状況報告
- ③平成30年度カリキュラムと教育の進め方について

最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

別紙

平成 28 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 平成 28 年度の活動報告等について

(1) 平成 28 年度第 1 回委員会以降の主な経過

○宮下事務局長、事務局高橋より、担当する項目について、資料 2（別添 A、B）に基づき平成 28 年度第 1 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 職業実践専門課程関連

(1) 介護福祉科の職業実践専門課程認定申請

- ・ 8 / 26 豊島区に認定申請書類提出
- ・ 11 / 30 後期実施の第三段階実習の契約書と実習評価資料を豊島区に追加提出
- ・ 12 / 28 文部科学省に正誤表他提出
- ・ 2 / 28 官報（号外第 39 号）に文部科学省告示第 22 号で公示予定
今年度の一都三県での介護福祉科の認定は本校のみ

2. 学校関係者評価関連

- ・ 11 / 20 平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会
- ・ 12 / 26 平成 28 年度学校関係者評価委員会報告書の校長への提出（別添 A）
- ・ 3 / 18 平成 28 年度第 3 回学校関係者評価委員会開催予定

3. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・ 平成 28 年度の重点目標、年間の退学率 3.5%以下を設定して取り組んでいる

(2) 就職内定の状況

- ・ 各学科の学科運営計画にそれぞれ内定目標を明記して取り組んでいる

4. アンケート関連

(1) 平成28年度の実施状況

	前期授業アンケート	後期授業アンケート	学校生活に関する調査
実施期間	・ 6 / 27(月)～7 / 1(金)	・ 12 / 12(月)～22(木)	・ 12 / 12(月)～22(木)
公表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期授業アンケートの全体集計（別添 B） ・ 学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・ 学外：平成 28 年度活動の自己評価報告と合せて本校ホームページに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・ 学外：非公表 	

5. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況（1 月末時点）

	看護科を除く学科	看護科
既実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10/15(土)、11/12(土)、11/26(土)、12/17(土)、1/21(土)、2/18(土) ・ 特待生、推薦、ワグ奨学生、AO、外国人、一般 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校・公募推薦：10/30(日) ・ 社会人・キャリア：11/26(土) ・ 一般Ⅰ期：11/26(土)、12/10(土) ・ 一般Ⅱ期：2/4(土)、2/11(土)
今後の日程	・ 3/11(土)、3/25(土)	

○以上の報告について橋本校長より、以下の補足が行われた。

- ・職業実践専門課程は4年目を迎え年々認定の申請も減ってきている。現時点では、専門学校全体で32%の学校が認定を受けており、2年制以上の学科では39.5%、約4割が認定されている。
- ・最近の流れとしては、文科省は平成31年から専門職大学の開学を目標としているが、介護の分野においても専門職大学を検討している学校があると聞いている。
- ・退学関係では、介護福祉科の本科生は学習継続率が非常に高く、ここ数年、退学者は出ていない。本校の中で模範的な学科であることを申し添えておきたい。

○企業等委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

①就職について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□本科生の内定者数が10名ということだが、処遇が低いので決めかねているのか。</p> <p>□次年度、処遇改善加算でまた単価アップするので給料が上がると思われるが、求人状況に反映しているか。</p> <p>□事業所としては長期雇用、キャリアアップをPRしているが、今の学生は雇用期間をかなり短く考えているように思う。</p> <p>□事業所としては終身雇用や盤石な基盤が売りにならないことを感じ始めている。</p>	<p>□自分に合っているところをゆっくり探そうという傾向が強い。</p> <p>□毎年、夏休み前に決めておきたいという人、夏休み中に活動して決めたいという人もいる。それ以降になると、第3段階の介護実習を終了した後に行われるケーススタディ発表会が終わってから取り組もうという人もいる。</p> <p>□全体的にアップ傾向はあると思うが、正確なところはもう一度確認してみる。</p> <p>□2Aの内定者数は先週の時点で2名増えて12名、内定率は75%になる。遅い学生に関しては、給与面というより、自分がそこで長く働けるかを重要視している傾向がある。</p> <p>□実習で特養や老健を経験して自分に合っていないと思うと、グループホームや在宅の事業所を探し出す。最初は小規模のところで働いてみて、その後安定した社会福祉法人に就職したいという考えがあるようだ。</p> <p>□逆に、先に大きい法人に入り、次にいろいろなジャンルの経験を積むことでキャリアアップをしたいという希望もある。</p>

②授業アンケートについて

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□アンケートの図10-5、介護福祉科の学年・クラス別の回答比率の中で、質問11の「教員は、学生に公平、平等に接して授業をしている」に対して、1年生と2年生に無回答が多いのはなぜか。</p>	<p>□無回答を議論していないので、何とも言いえない。</p> <p>□無回答は多様な意味を含んでいると思う。回答のさせ方等の影響もあるかもしれないので、自己点検委員会の中で確認してみたい。</p>

	□全体的にアップ傾向はあると思うが、正確なところはもう一度確認してみる。
--	--------------------------------------

(2) 平成 28 年度の教育活動と学科運営に関する報告

○岩上学科長より、資料 3 及び資料 4 に基づき以下の報告が行われた。

①平成 28 年度カリキュラム

- ・「日本文化論」と「現代社会論」は利用者への理解を深めるための幅広い知識を涵養しつつ、専門知識及び技術を習得するというので、この科目を位置づけている。
- ・授業は実技と講義の組み合わせが好評で、学生からはこの科目が 1 番楽しいと言われている
- ・今後は、例えば訪問介護のマナーも入れようと思っているが、授業内容については是非ご意見をいただければと思う。
- ・在宅及び地域密着型サービスへの理解を深める点については、前期に在宅介護の事業所から講演を行い、後期は熊谷教員の地域包括ケアシステムについての授業の後に、実習先の施設長の方をお願いして地域包括ケアシステムの実際について講演を行った。学生からも好評で今後も継続する予定。

②医療的ケア

- ・今年度の 1 年生からは I、II 編成にして 1 年生前期、後期、2 年生前期で実技試験に向けての演習と最終的なテストを行って基本研修終了としている。結果的には、実技試験までの日程が前倒しになるのがメリッになると思う。2 年生は従来の 1 年生後期からの開始 2 年生前期終了で試験開始のため最終合格が 2 月 14 日までがかかった。

③保護者会

- ・8 月 27 日に学科で初めて実施し、本科生 8 名中 5 名が参加された。面談には 1 名の参加があった。
- ・保護者会では、国家試験の概要、スケジュールなど、またご家庭と学校が連携をとりながら受験対策を進めていきたいことをお伝えした。
- ・参加者からはやっていただいてよかったという声が聞かれ、今後も継続実施したいと考えている。

④学生募集

- ・前回お話の、丸山委員にもご協力をお願いしてオープンキャンパス等で介護福祉士の仕事をアピールしていく件は、まだ準備中の段階。
- ・学生募集は広報と連携を取りながら、夏休みを中心に教員も学校訪問する他、体験授業やガイダンスでも高校を回っている。結果が出るのはまだ先とは言え、訪問校の 1 名がこの 4 月に入学することになり、回った甲斐があったと感じている。

○武石教員より、資料 4 に基づき実習について報告が行われた。

- ・今年度は 33 事業所で介護実習を行っている。
- ・1 年生は 6 月に 2 週間、6 事業所で実習を行った。今年はさまざまな事業所の種別を経験できるように調整し、また地域包括ケアシステムについて意識ができるように工夫した。原町の 4 人は特養とグループホーム、小規模多機能と 3 つの事業所を経験、江古田の森の 4 人は特養、老健、通所介護、ケアハウスを経験できた。
- ・第 2 段階については、2 月 13 日から 3 月 9 日の 4 週間、特養が 8 施設、老健が 1 施設、複合施設が 1 施設計 10 カ所の事業所で今日も実習をしている。
- ・第 2 段階は個々の実習に集中ができるように 1 人 1 施設の割り振りをした。人数が少ない分、さまざまな種別の事業所で経験ができています。

- ・2年生は夏休み期間中に9法人、15事業所で訪問介護実習を行った。スケジュールを個々に調整して、滞りなく終了することができた。
 - ・第3段階は9月から10月にかけて4週間、15の施設で実習した。内訳は特養が10施設、老健が4施設、障害者支援施設が1施設。第3段階では1人の利用者を対象者として、アセスメント、計画の立案、実施、評価を行うが、その結果はケーススタディとしてまとめて発表会を行った。
 - ・特養と老健以外はまだ足りない状況であることから、事業者開拓が今後の課題と考えている。
- 熊谷教員より、資料4に基づき地域包括ケアシステムと国家試験準備、卒業時共通試験について報告が行われた。

⑤地域包括ケアシステ

- ・今年度は訪問介護実習のオリエンテーションとして、昨年の6月に訪問介護事業者のクールヘッドの代表の方に講演をお願いした。
- ・それを踏まえて、2年生後期に介護総合演習の中で地域包括ケアシステムの概要について講義し、総論を伝えた上で、翌週に多摩済生ケアセンターの施設長にビデオ動画を見ながら講演をしていただいた。
- ・内容は、本校3期生の卒業生がケアマネジャーとして活躍されていて、その方のインタビューを通じて業務内容、実際の様子などの紹介、相談所や認知症サポート養成講座などの活動の様子を紹介などで、より具体的に理解を深められたと思っている。
- ・今年度はシステムの全体像や求められている背景などを説明した上で、事業者に依頼して実践の理解を深めるという形式とした。これを今後も継続する予定。

⑥国家試験準備

- ・国家試験準備は個人面談、保護者会、冬季課題、模擬試験で進めている。
- ・個人面談は1年生の5月、10月ともう1回実施している。保護者会は学科長報告の通り。
- ・冬季課題は冬休み、過去問のよく出る問題を解いて、わからなかった問題をノートに解説をまとめてくるという課題を出している。そのノートを提出、添削して学生にフィードバックした。
- ・2月6日に第1回目の模擬試験を実施した。1年間で学んだ現時点での立ち位置を振り返る、また国家試験のシミュレーションの意味から当日と全く同じタイムスケジュールで実施した。
- ・120問120点満点で合格基準は6割、72点が合格ライン。1年生の10名中9名が受験し、合格ラインを上回った者が7名。
- ・人数が少ない中、全体で勉強し合って頑張っていくというクラスの雰囲気づくりをいかにしていくのが今後の課題と思っている。

⑦卒業時共通試験

- ・2月15日に実施された今年度の卒業時共通試験は、「医療的ケア」が加わって125問。受験者数は27名、欠席が1名。
- ・結果は本校の平均点が86.33で、全国平均を0.34点下回ったものの、昨年の4.73点よりは良かった。
- ・全国平均を上回った科目は「人間関係とコミュニケーション」「社会の理解」「介護の基本」「生活支援技術」「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の7科目。
- ・平均の得点率よりも5ポイント以上低かった科目はなかった。この卒業時共通試験の成績を国家試験に換算すると不合格は3名となる。

○松下教員より、資料5に基づき平成28年度のケーススタディ発表会について報告が行われた。

- ・前年度までは卒業研究という名称で進めてきたが、ケーススタディから学生が事例を深く学ぶという

形で今年度から変更した。

- ・第3段階実習において、アセスメント、介護計画を立てて実施したものについて学生が毎週事例をまとめ、12月に原稿を提出し、それを指導教員が1月から指導して完成させたが、今回からは製本した冊子ではなく、学生にファイリングをさせて自分たちで冊子をつくる形にして、自分たちが関わってやっているのだという意識を高めた。
- ・2月18日土曜日に校内で発表会を行った。1年生が全員参加して聴講、外部の講師の先生方もお招きして、2年生が一人一人発表した後に1年生が順に質問をしていくという形式で1日かけて実施した。2年生、1年生ともに学びの場として行うことができた。
- ・次年度以降については、国家試験があるため開催時期を含めてこれから調整する。

○企業等委員他からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員他からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 「日本文化論」の接遇マナーだが、実際、事業所に来る人たちを見ていると年齢を問わず基本的なマナーができていない人が非常に多い。この教育は引き続き強化していただきたい。「介護福祉科ゼミⅠ」の3分間スピーチも、限られた時間でポイントを伝えることは重要なので、引き続き強化してほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> 全く同感。本当にそう思う。現場ではこんなに丁寧にはできない。</p> <p><input type="checkbox"/> 3分間スピーチの効果はどうか。</p> <p><input type="checkbox"/> 報告とスピーチは別だと思うが、目的に応じた伝え方についての指導を是非していただければと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/> ありがとうございます。引き続き進めて参ります。</p> <p><input type="checkbox"/> テーマは自由にしている。何について話すのか予め考えて話すよう助言はしているが、行き当たりばったりで話す学生もいる。その後の影響、効果については今後の課題と考えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 2年生は昨年、介護ゼミで3分間スピーチを行ったが、かなりプレゼンテーションができる力をつけていると思う。</p>
<p><input type="checkbox"/> 先ほどマナーというお話があったが、実習評価では本校の学生はどんな感じなのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 仕事に取り組む姿勢、職場の中でいい形に存在できるように、またその後の伸びしろへの期待も</p>	<p><input type="checkbox"/> 私が実習巡回している1年生2名は、非常に評価していただいている。元気な挨拶、積極的に質問する態度などもマナーが根底にあるものと感じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 私が巡回に行っている学生も、マナーについては非常にきちんとできているという評価を施設からいただいているので、効果はあらわれていると思っている。</p>

あることから、そういった指導を是非行ってほしい。	
--------------------------	--

(3)平成 28 年度の教員研修に関する報告

○岩上学科長より、資料 4 に基づき職業実践専門課程に向けて取り組んでいる学外及び学内研修について報告が行われた。

- ・平成 28 年 9 月 12 日以降が新規記述。10 月 5 日パーソンセンタードケア研修は池上長寿園様の研修に武石教員が参加させていただいた。
- ・国際福祉機器展は今まで実現できなかったが、今年度は参加することができた。
- ・学会には熊谷教員が 11 月 4 日から 6 日まで日本社会保障法学会。また、日本障害者リハビリテーション協会で ICF や介護予防、地域包括ケアシステムに関するような研修を受けた。
- ・来年度以降について、どのような研修が必要か、また参加したほうが良い研修があればアドバイスをいただきたいと思う。

○熊谷教員より、資料 4 に基づき学校として取り組んでいる授業公開について報告が行われた。

- ・教員の指導力の育成など質の向上のための取り組みとして文部科学省ガイドラインに明記されており、本校では平成 25 年度以降常勤教員の教員研修として位置づけており、年度の重点目標にもなっている。
- ・今年度は 10 月 11 日から 24 日まで全学科で実施したが、介護福祉科の授業には合計 7 名の参観があった。介護福祉科の教員もそれぞれいろんな学科の授業を参観して、各自の授業で参考とした。

○報告に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

4. 平成 29 年度の教育活動と学科運営について

(1) 各学年のカリキュラムと教育活動のポイント

○岩上学科長より、資料 4 に基づき各学年のカリキュラムと教育活動のポイントについて説明が行われた。

- ・カリキュラムは今年新しく編成したので、継続で経過を見る。
- ・2 年生前期の介護福祉事務は、医療秘書科教員の協力を得て進める。
- ・全体のスケジュールは、従来は後期授業終了が 1 月末、2 月初に定期試験だが、国家試験受験を考えると定期試験まで全て 12 月中に終わって、あとは年明けからは国家試験に向けた勉強のほうを進めていきたいと考えている。
- ・保護者会は今年は 1 年生の保護者の方にお集まりいただいて夏休みに実施したが、来年度は夏休み前に実施できればと考えている。また、保護者からの希望があったことから、1 年生に 1 回だけではなく、2 年生にも実施したいと考えている。
- ・教員研修は、国家試験も踏まえ我々の専門性の向上を中心に内容を絞り込んでいきたいと考えている。

(2) 国家試験対策

○熊谷教員より、資料 4 に基づき国家試験対策について報告が行われた。

- ・平成 29 年度のスケジュールは、福祉事務管理技能検定の資格取得に向けての「介護福祉事務」を 4 月から開講する。
- ・この検定は介護福祉の国家試験に類似しているものがあり、また検定は学校外で行われるので、ふだんとは違う教室で受験するのも経験になり、一石二鳥と考えている。

- ・6月に中央法規出版が行う全国統一模擬試験を受験する。国家試験の出願が8月から9月なので、出願前の最後の模試である程度成果が出るように取り組んでいってほしいと思っている。
- ・後期は10月に中央法規出版の模擬試験、11月に福祉事務管理技能検定、12月に介護福祉士養成施設協会の行う学力評価試験がある。この試験で立ち位置を確認して、残り1カ月で総仕上げをして1月末に受験するという流れとなる。

(3) 介護実習

○武石教員より、資料6に基づき介護実習の手引きについて報告が行われた。

- ・資料6「介護実習の手引き」は実際に学生に配付するときには透明なファイルに挟む。
- ・これまでは実習に必要なものはその都度プリントで配付したり、口頭で説明したりしていたが、実習の全体の流れを学生が把握しやすいように、またプリントを紛失して、学生が実習中に困ることがないように、昨年度から少しずつ作業をしてようやく完成した。
- ・実習の計画とともに進めることができるよう1章から5章の構成になっている。
- ・1章は実習の基本的な部分で、科目の狙いですとか実習の目標やポイント、心構えとか、注意事項やルールについて掲載をしている。
- ・2章からは実習の準備。このとおり進めれば実習の準備が整うように構成している。必要書類の準備、目標の設定の仕方など。
- ・3～4章には2段階、3段階の介護課程の課題の進め方をはじめ実習に必要なことをまとめた。
- ・5章は実習に使用する様式と参考資料、記入例を掲載している。
- ・「介護実習の手引き」は来年度から使用開始する。これで今までよりもわかりやすく実習ができるようになるのではないかと考えている。毎年度アップグレードしながら、これを見れば実習の流れが全体にイメージできるようにしたいと思っている。

(4) 学生募集

○榊原広報室長より、学生募集について説明が行われた。

- ・介護福祉科の募集広報活動ということで、本年度の活動も含めての報告と説明。
- ・オープンキャンパスの参加状況は、28回開催して実参加人数が22名。延べの参加人数は41名となり、リピート率は1.86回。前年は実参加者29名、延べ参加47名でリピートが1.62なので、リピート率が上がってきている。
- ・出願は15名。男性5名、女性10名、全て高3生。実参加者から見た出願率は68%で、参加者中68%の方が出願をしてくれたことになる。前年度は52%なので大幅にアップした。
- ・募集活動は、高校ガイダンスに介護福祉科の先生方が参加して12月末現在で23校を訪問した。内容は車椅子の体験とか自助具を使った模擬授業とパソコンやアイパッドを持ち込んでパワーポイントを使っての学科説明
- ・出席者数はトータルで105名。3年生9名、2年生63名、1年生33名で、この2年生63名が来年度の募集に生きてくるのではないかと考えている。
- ・日本語学校2校を訪問したが、介護を目指してくる留学生は少ないというお話だった。留学生で定員を埋めた学校もあるらしいが、それなりの体制を整えないと難しいと伺っている。
- ・30年度の学生募集は、引き続き広報ガイダンスを行っていくことと、1つの代理店の埼玉県の代表校企画に入ったので、来年度は埼玉県からの資料請求数がかなりアップする予定。
- ・募集促進のリーフレットを作成する。今年度の企画は池上長寿園さんの卒業生に取材をさせていただいて、プラス処遇面の記事を載せていきたいと思っている。

○以上の説明について橋本校長より、以下の補足が行われた。

- ・留学生の募集はうまくいっているところも、うまくいっていないところもあるのが現状。経済的支援を含めたプログラムを用意するなど、覚悟を持ってやらないとうまくいかないと思う。
- ・介護福祉科には、基礎から2年間きちっと学んだ多くの先輩が現場で頑張っているという土壌がある。良い人材を育て、送り出し、そしてまた現場の中で伸びていくといった流れがうまく回っていると思う。学生数が少ない現状ではあるが、この流れを継続、発展していくためにも、新しい協力関係を築いていきたいと思うので、引き続きご相談をお願いしたい。

○企業等委員及び学科からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員他からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□今年、国家試験の受験率が半分近くに下がったと新聞報道されたが。</p>	<p>□実務経験に加え技能実習が必要になったので、ハードルが上がったのではないかと。</p>
<p>□この間、武石先生に私たちの研修を受けていただいたが、学校の授業の振り返りのなものが多いので、どのように感じられたか伺いたい。</p> <p>□働く現場の処遇が悪くなり、ブラック企業と言われる法人、事業体が増えている中で、自分の身は自分で守るという意味で労働法制について生徒さんも先生方も知っておいたほうがよい。現場ではケアマネジャーの項目のリ・アセスメントが今後主流になっていくと思う。プランニングをする側の方法論が大分変わってくる状況があるので、介護保険の現状や具体的な変化を学ぶ機会を持たれたほうがよいのではないかと。もう1つは、リスクマネジメントの研修も受けられるとよいと思う。</p>	<p>□今後どのような研修を受けたらよいか、アドバイスをいただけないか。</p> <p>□講師が大学の先生で、研究だけでなく実践事例をお話しされたので、現場の方も非常に興味を持って聞かれていたと思う。私としては、教え方や講義の進め方が参考になった。</p> <p>□今ご提言いただいたように、介護の現場の変化を学生に理解させることは必要だと思う。また、国家試験については、問題文を読み取る力が要求されるようになってきていると聞いているので、ただ、正解だけを求めるのではなく、自分で問題をつくらせてみるなど、受験指導の工夫も必要だと思う。よい学生を育てるために、ぜひ先生方には努力していただきたい。</p>

以上